

ひきこもり家族自助会とやま大地の会(設立 2001 年 3 月)

振込先 北陸労働金庫 富山南支店 普通 3414428 とやま大地の会

♪ ♪ 例会のおしらせ ♪ ♪



例会は、ミニ講演や

グループでの分かち合いの場です。また個別相談(希望者)も行っています。

新型コロナ対策のため、実施について変更可能性もありますので、ご参加を希望される方は、
本会のホームページでの確認をお願いします。

06 月 19 日 (第 3 土曜日)	第 244 回例会	13 : 30	富山市安住町サンシップとやま 601 号室
07 月 17 日 (第 3 土曜日)	第 245 回例会	13 : 30	富山市安住町サンシップとやま 701 号室
08 月 21 日 (第 3 土曜日)	第 246 回例会	13 : 30	富山市安住町サンシップとやま 604 号室
09 月 18 日 (第 3 土曜日)	第 247 回例会	13 : 30	富山市安住町サンシップとやま 501 号室

会費 正会員の 2021 年度からの年会費は 2,000 円。例会参加費無料。(振込料は各自負担です。)

非会員の方の、2021 年度からの例会参加費 200 円です。

サンシップでは駐車券を 2 階事務所にし、「大地の会」とおっしゃってください。無料になります。

サンフォルテでは駐車券を 1 階受付にし、「大地の会」とおっしゃってください。1 時間無料になります。

◎富山県ひきこもり地域支援センター、最寄りの厚生センター、保健所で相談をしましょう。適切な支援に繋がるよう力を借ります。

◎支援センターに希望すること、親に出来ることを常時募集しています。

◎ご相談があれば、ご遠慮なく、事務局の携帯 (090-3768-1733) にお電話ください。すぐに出られない場合もありますが、受信履歴を見て、こちらからおかけします。悩みを分かち合い、心の負担を軽くしましょう。

非通知のお電話はご遠慮下さい。

「とやま大地の会」のホームページですが、下記 URL で開設しています。ご覧ください。

<http://toyamadaichinokai.com/>

♪ 5 月例会報告 ♪

日 時 : 5 月 15 (土) 13:30~16:00 サンシップとやま 501 号室

参加者 : 20 名 (男性 9 名 {内体験者 2 名}、女性 11 名 {内体験者 2 名}) のご参加がありました。

I 連絡事項

(1) 名札について

前回の例会で、皆さんの名前が分からない・覚えられない・名札を付けたらという要望がありました。運営委員会で話合った結果、プラスチック製の名札ケースの首掛け式とラベルシールに記名式の 2 種類を準備することとしました。ご自分で記載していただく、本名又はニックネームでも良いです。

(2) 本の配布について

前回の花無心で“ブックレット紹介”いたしました『親から地域社会へのバトンタッチ “松の木プロジェクト”』と『あなたが地域で生きていくための“松の木プロジェクト”』2 冊組ですが、会員の方にお配りすることといたします。

II いつもの話し合い

今回は全体と、3 つの班に分けいつもの話し合いをしました。

全体 … 今回は、公的機関への意見を主に話し合いました。

- ・ひきこもり本人や家族を支援される方々の育成が必要。
- ・ひきこもり地域支援センターのベテランのスタッフの方が、今年 3 月末で退職されました。子が今まで温かい支援を受け良くなってきただけに残念です。辞めずにいて欲しかった。
- ・悩んで相談したい時、どこへ行けば良いか分かり易くして欲しい。たらい回しにされた経験がある。
- ・ひきこもりに様々な段階がある。家族のみでは解決出来ない。プロのサポートをお願いしたい。
- ・年齢が高くなると (20~30 年経っていると)、相談対象としてもらえず、外との関係がとれなくなる。
- ・支援者の人材育成を図って欲しい。また、人材の確保に対する財政支援が必要。
- ・公共の場に、フリースペースのようなものがあれば良い。作って欲しい。

- ・奥田交番襲撃事件、加害者は自衛隊に所属したなど普通の人、但し、発達障害的なものがあったかもしれない。障害に誰かが気が付き早めに手を打ってれば、防止出来たかもしれない。そういう社会に変えて行くべきかと思います。
- ・障害者手帳がなく障害者枠での仕事に就けない。なくても雇ってもらえる所があれば良いです。

A班（7名）

- ・妻がひきこもっている。なかなか変化がない。娘もひきこもっていたが、部屋から出てくるようになり、妻の世話もしてくれる。
- ・姪が中学校の頃からひきこもりをしている。叔父、叔母の自分たちが週に1回訪問している。
- ・息子（当事者）が健康診断で治療が必要な箇所が見つかった。スマホや車のことなど、高齢になった両親の相談にのってくれる。
- ・息子は、PCで絵を描いて収入を得ている。責めることなく、あきらめずにいると良いことがあると思っている。
- ・ひきこもりがちな妻は1日中テレビを見たりして過ごしている。1カ月はすぐ経つ。

B班（6名）

- ・ひきこもりで困っていても何処へ行っていいのかわからない。たらい回しになりがち。
- ・仕事に出ようとしても、面接で厳しい局面に出会い、本人はパニックになることがあります。それで諦めたら次がなくなる。(今の世は) 本人が動かないとスタート出来ない。
- ・本人は仕事に就こうと面接に行くが、結果の通知すら来ない。受け入れてもらえない。
- ・親亡き後、本人はどうやって生きていくのか心配。皆さん同じ気持ちです。
- ・何とか仕事に就かせたいと望んでいる親の発言について
 - 本人それぞれ原因があるので、間違った対応は危険です。お子さんが仕事されていたことを認めてあげたら良いのでは。本人を追い込むと、かたくなになってしまいます。父は息子に自分の良いところを見せがちだが、逆に弱い欠点を見せたほうが良いかと思います。
- ・子作業所に入れたいが、手帳を取る事が出来ない。なにか手立てがないか。



体験者+班（7名）

記事の記載はしません。

III 本県選出の国会議員から家族の声が聴きたいと要請がありました。6名が参加し、それぞれの経験や思いを述べました。その概要報告をします。意見を求められた内容は、次の2つです。

①「ひきこもり家族会など民間団体への国や県の支援はどんな実態か」

②「足りていない支援は何か」

【会員から出された意見等】

- ・富山県ひきこもり対策支援協議会が、H23に発足、発足は大地の会も要望しました。当会からも委員が出ています。また富山県ひきこもり地域支援センターがH24に発足し、センターと家族は連携を図り、また県主催の行事にも多くの会員が参加しています。
- ・富山県がひきこもりの実態調査を行い結果、ひきこもりの方が約9,000人と推定されました。その中で3割の方が支援箇所につながらず、ひきこもりの方が約6,000人と推定されました。しかし残り7割、約6,000の方が途方にくれている状態です。その方々への支援が重要です。対象者が多く、個々の存在が特定できないので、個々の方に支援が出来ません。各市町村の自治会・民生委員他で実態を把握し、実効性のある支援をしないと、支援の手が届かないと思います。
- ・支援センターのベテランの専任相談員が、3月末で退職されました。ひきこもりの方々は対人関係が苦手な中で、唯一対話出来た方がいなくなられた事に気落ちしています。会員の中では辞めずにいて欲しいという声が多く出ています。
- ・本人が医者へ行けず、障害者認定につながらないので、就労継続支援事業所に入れない。何とかして欲しいという声が多いです。
- ・息子は現在40代半ばで、高卒後20代後半頃から「家事手伝い」をしながら「ひきこもり」状態を続け、家族や他の人との関わりを避けています。家族会での学びから、居場所の設置が、当人や家族の大きな拠所や次への力になることを知りました。この取り組みを是非要望したいと思います。
- ・私は、ひきこもりを経験しました。大地の会にやっと参加出来た頃、皆さんから親切にしてもらいました。特に元当事者の方から多く教えていただき、今の自分があります。今は次の新しい参加の方に経験を

お話ししています。

- ・ひきこもり者は感情の変化が多く、良い状態が長くは続きません。良い時に相談に行きたくても近くに相談する場所がありません。近くに相談に行ける場所があれば助かります。
- ・全国で開催された、ひきこもり関係者の全国交流会に参加して来ました。今はコロナで中断していますが、その時につながりを持てた方と連絡を取りあっています。
- ・施策立案にあたっては、当事者と家族の願いに応える施策を立案し、実施してほしい。また、財政の厳しい市町村に暮らす当事者と家族にも等しく支援が及ぶ財政措置を望みます。

議員より

- ・今日お聞きして、それぞれが精力的に取り組まれているのが分かりました。ひきこもりは個人ではなく社会全体の問題、自己責任ではなく社会全体の責任です。
- ・ひきこもり支援のための法律をしっかりと作りたい。
- ・予算的な事、国・県・市町村の役割分担をしっかりとやっていきたい。
- ・アウトリーチに関して、当事者や家族の意向に沿った仕組み、その方の速度に合わせた支援を考えたい。

IV その他

- 1 例会ではなかなか十分に自分の話が出来ない。言い足りないことなど。日常のあゆみなど体験発表をしてみませんか？約 20 分間程度を予定しています。
- 2 投稿欄について
会員の皆さまから、“ひきこもりの理解”に関する本の紹介や講演の感想等、募集しています。投稿される方は、後日、読まれた方から問い合わせ等がある場合がありますので、できればお名前をお書き下さい。

V つくしの会より(2003 年設立)

2003 年創立以来、今日まで継続し、現在はコロナ禍のため、高岡市内 2 個所で話し合い中心の例会等を行っています。諸事情で変更の際は、ご了承ください。

1、6、7 月の予定

- 月例会：第 2 日曜、pm1:30~4:30 高岡市立博労公民館で(和室→研修室)

○実施日…6 月 13 日、7 月 11 日、8 月 8 日

※月例会の直前 12:30~世話人会です。

- おとぎの森定例会：毎週水曜、pm2:00~4:30 高岡市おとぎの森・森のふれあい館で(1 階か 2 階の研修室)

○実施日…6 月 2 日、9 日、16 日、23 日・7 月 7 日、14 日、21 日、28 日・8 月 4 日、11 日、(18 日はお盆休み)、25 日

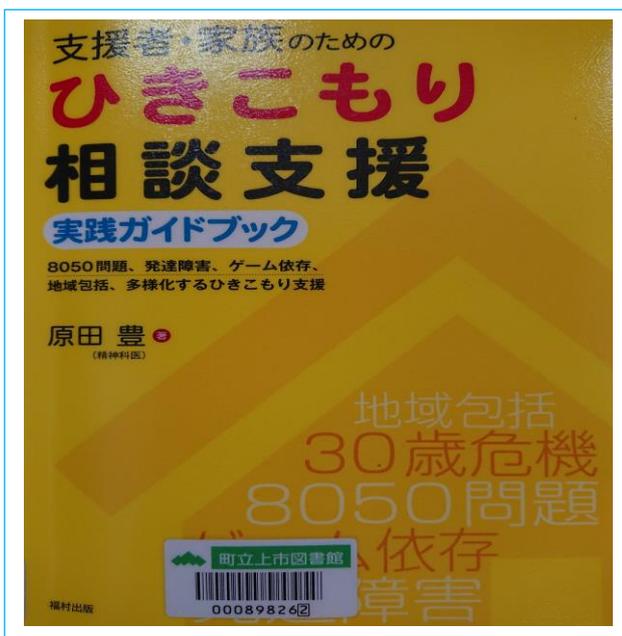
- 研修等：講演会 6 月 5 日(土)pm1:30~自治労富山会館○講師：久世芽亜里さん(ニュースタート事務局員)「信じて待つ」をやめる

つくしの会へのお問い合わせは、下記までお願いします。

〈連絡先〉 ☎090-3768-1733(大地の会)からつくしの会へ連絡、または ☎090-4684-5071(宮川)まで

VI 書籍の紹介

『支援者・家族のための ひきこもり相談支援実践ガイドブック』著者：原田 豊、福村出版



著者の原田 豊先生(精神科医)は、昨年 10 月に開催された「令和 2 年度 ひきこもり研修会/子どもの心の健康セミナー」の講師として来県され、{多様化するひきこもり支援}という題で講演されました。

約 30 年間、鳥取県立精神保健福祉センターに勤務され、不登校、ひきこもりの相談、支援に尽力しておられます。この本では、ひきこもりの理解や支援について、先生ご自身が、鳥取県内の関係機関や民間と協同して取り組まれた実践を基にして、わかりやすく書かれています。

書籍名にある、支援者・家族のためのを見て、「とやま大地の会」の会員、公的機関、民間の支援者の協力・協同の拡大につながることを願って紹介しました。